



図4-10-5 全体の配線実体図

動作テストと調整

配線が終わったら、誤配線をしていないか、何回も見直します。電源(電池12V, 乾電池なら8本直列にしたものまたは12Vの安定化電源)をつなぎます。VR(ATT)を右に回すと、サーというノイズが聞こえます。右に回すと、ピーとかギャーという音が出たら発振ですから、配線の引まわしやコンデンサの接続を調べて、ゲイン(利得)が上がりすぎているようでしたら、図4-10-3のように、MA-1の入力のところに半固定VRを付けて少しゲインを下げます。

ここまでOKになれば、信号発生器があればそれを使って調整できますが、持っていない人は実際の電波を聴きながらそれが最大になるように調整します。

- ・ダイヤルを中央部あたりにして、電波がキャッチできたら、 L_1 のコイルのコア(鉄心)を調整ドライバでゆっくり回して最大感度にします。
- ・次は、ダイヤルの目盛り合わせです。

周波数カウンタがあれば、いちばん簡単ですが、デジタルで周波数が読める受信機(またはHFの